

# あつさと



厚木佐藤病院  
since 1983

2024年  
3月  
Vol.6

## 掲載内容

新看護部長就任のご挨拶

診療科説明「整形外科」

部署紹介 ～リハビリテーション課～

県央地区リハビリテーション連絡会にて発表を行いました

褥瘡とは？ ～当院の褥瘡対策について～

令和5年度 学生臨床実習受入れを行いました

令和5年度 神奈川県看護学会 研究発表を行いました

県央地区認知症疾患医療センター研修会を開催しました

学生臨床実習の風景

検査案内 ～パシャッとカメラで目を撮影！眼底検査～

意外と知らない薬の使い方

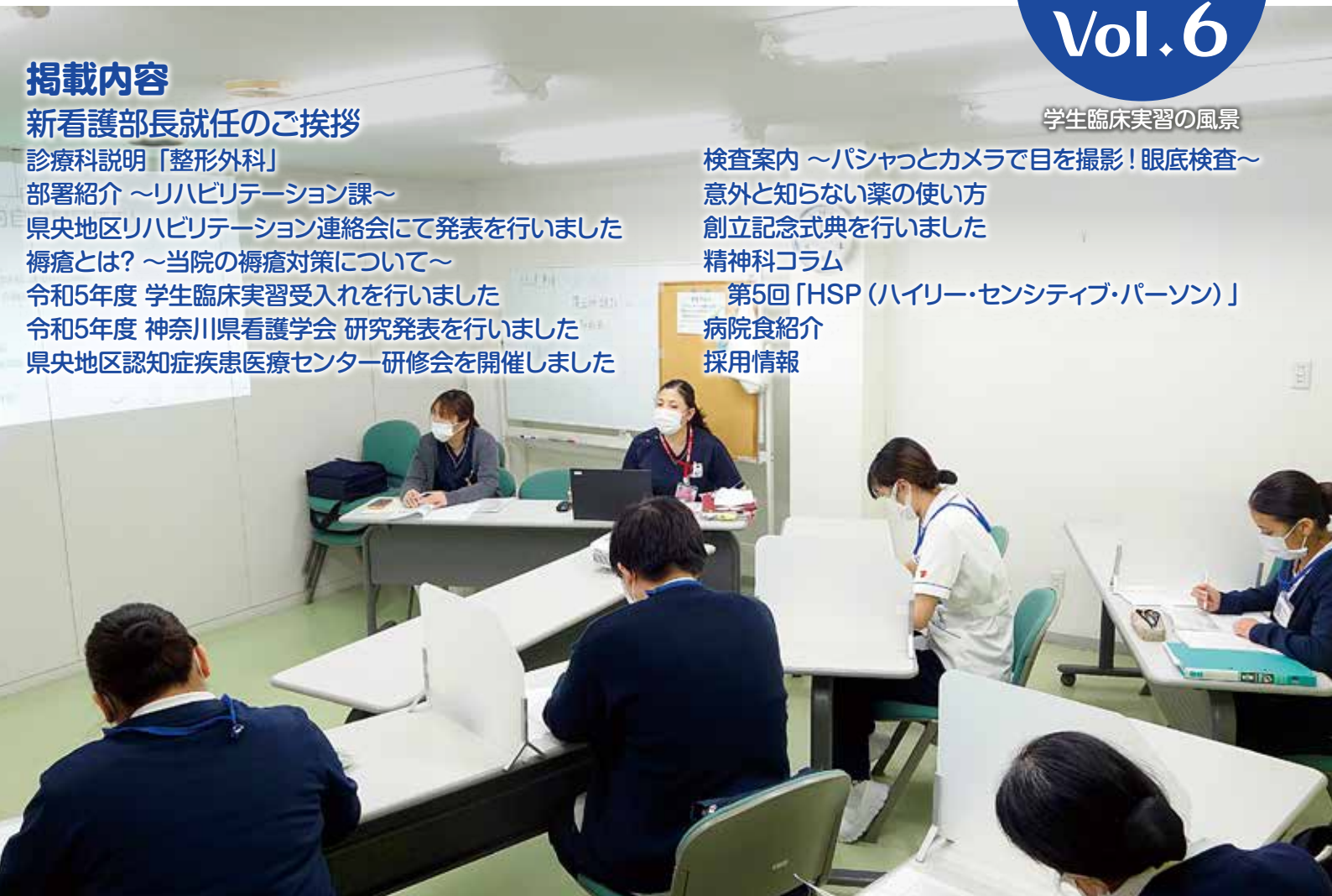
創立記念式典を行いました

精神科コラム

第5回「HSP (ハイリー・センシティブ・パーソン)」

病院食紹介

採用情報



## 新看護部長就任のご挨拶

広報誌「あつさと」をお読みいただきありがとうございます。昨年12月より看護部長に就任いたしましたハントと申します。微力ではありますが役割が果たせますよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

看護部は150人の看護職員と介護職員で構成されており、院内で一番大きな部署となっております。病院の基本理念である「心と体の健康を守る質の高い地域医療の提供」と、これに基づく看護部理念「人と人のふれあいを大切にし、あたたかい看護・介護を実践します。」を常に心掛けることで、入院される患者様をはじめ、当院の外来



にお越しいただいている患者様お一人おひとりに丁寧に関わらせていただいております。

少子高齢社会となった今、当院の強みでもある高齢者医療と認知症ケアの充実を図り、地域の皆様へ貢献できればと考えております。地域の病院施設や介護施設等との連携に取り組み、地域にとって必要とされる病院づくりに取り組んでまいります。これからも厚木佐藤病院をよろしくお願いいたします。

## 部署紹介 ～リハビリテーション課～

リハビリテーション課にはPT（理学療法士）9名、OT（作業療法士）13名、ST（言語聴覚士）3名、助手1名の合計26名が在籍しております。

「リハビリで つなぐみんなの 笑顔の輪」を理念とし、患者さんに笑顔になっていただけるよう日々リハビリを行っております。リハビリ室の壁には季節を感じられる装飾が施されているほか、懐かしい音楽が流れているなど、明るく楽しい雰囲気作りを大切にしております。

月2回行われる歌リハの会では、季節に合った歌や昔懐かしの歌などを生演奏で歌ったり体操したりと楽しい時間となっております。患者さんからご好評いただいております。

また、より良い形で退院を迎えられるよう退院支援にも力を入れております。必要に応じて実際にリハビリ見学（原則入院中1回）をしていただき、退院後のサービスや環境設定の提案・介助方法指導などを行い、安心して退院していただけるよう、きめ細かな退院支援を心掛けております。



## 診療科説明「整形外科」

整形外科は、人が動くときに使う運動器（骨・関節・筋肉・神経など）の病気やけがを診察し、治療を行う診療科です。主な治療対象は、体の土台である背骨と骨盤から手足など、広範囲に及びます。そのため、子供から高齢者まで全ての年齢層が対象となっており、患者数がとても多いのが特徴です。肩こりや腰痛といった身近な症状から、先天異常や、交通事故、スポーツによるけがなどのさまざまな病気に対応し、歩行や座るといった動作をスムーズに行うことを目標として治療します。

当院では、東海大学整形外科医局から医師を派遣してもらっています。大学病院術後のリハビリ目的での転院患者も多く受け入れています。手術が必要な場合は、近隣病院または大学病院に紹介させていただきます。現在当院でも手術開始に向けて準備中です。

※同じような名前で「形成外科」という外科もありますが、形成外科と整形外科は全くの別物です。形成外科は体の表面にある傷跡やあざを改善します。

### 整形外科で扱う主な病気

骨折、捻挫、打撲などのけが



交通事故によるムチウチやスポーツ時の障害



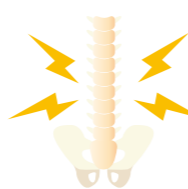
ぎっくり腰や椎間板ヘルニア



四十肩や五十肩、骨粗鬆症



先天性の手足や背骨の病気



外来診療日（整形外科）：火・金 午前

## 県央地区リハビリテーション連絡会にて発表を行いました

県央地区には、リハビリスタッフを対象に「県央地区リハビリテーション連絡会」が組織されています。この連絡会にて1月28日に第13回症例検討会がZOOMにて開催され、当院リハビリ課スタッフが演題「自己尊重を促す関りを通して精神面が安定し、活動性向上に至った症例」にて発表と討議を行いました。他医療機関のリハビリスタッフの発表を通して新たな知識や発見を得られ、臨床を振り返る機会となり、「とてもよい経験となり、さらに研鑽を積もうと思いました」との発表者のコメントでした。



## じょくそう 褥瘡とは? ~当院の褥瘡対策について~

褥瘡(床ずれ)は、皮膚の同じ部分への圧迫が持続する部位に起こる皮膚や筋肉の障害です。かつては「褥瘡は看護の恥」などと言われた時代がありましたが、発生原因やメカニズムがわかるにつれ、その考え方は改められ、現在は多職種で対応すべき疾患となっています。当院では多職種からなる褥瘡対策チームで対応しておりますが、それでも残念ながら入院中に褥瘡が発生し、ご家族から苦情をいただくこともあります。今回は褥瘡についての理解を深めてもらおうと思います。

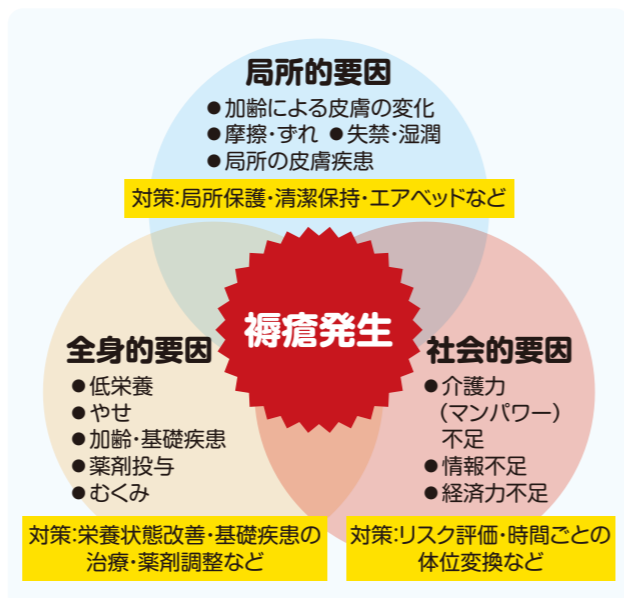
褥瘡の原因は大きく分けて3つあります。

1つ目は、皮膚自体の局所的な原因です。皮膚自体が弱く摩擦などで容易に傷ができたり、汗や汚物による汚れやふやけによる皮膚剥離や感染が悪化の誘因となります。

2つ目は、全身的な原因です。栄養不足、ステロイド薬、糖尿病、動脈硬化性疾患による末梢血流の低下などが原因で皮膚の脆弱性が増すのが発生要因となっています。また、痩せて筋肉が少ないと骨の突出により褥瘡が発生しやすくなります。他院での治療後にリハビリ目的で当院に転院されて来られる方の中には、治療による消耗で既に栄養状態が悪かったり、糖尿病などの合併疾患など、褥瘡発生の原因を持って来られることが多くあります。

3つ目は、社会的な原因です。介護力の不足や情報不足により褥瘡リスクの評価がされておらず、体位変換など除圧の対応がとられないなどです。かつて「褥瘡は看護の恥」など言われたのはこれにあたります。現在は入院時に褥瘡発生のリスク評価を行い、高リスクな患者さんには2~3時間毎の体位変換による局所の圧迫防止を目指す対応が推奨されております。しかし、患者さんの状態によっては最短20分同じ姿勢でいると発生するとも言われており、完全に防ぎきれるものではありません。1日中20分おきの体位変換は、患者さんにとっても看護師にとっても現実的な対応ではありません。

上で述べたように多くは患者さん自身の状態が褥瘡の発生原因になっております。発生予防には圧迫防止以外にも全身状態の改善が大事であり、栄養状態の改善や糖尿病をはじめとする内科疾患のコントロールを行っていく必要があります。当院では形成外科医、褥瘡担当看護師、管理栄養士、主治医からなる褥瘡対策チームで対応にあたっています。



褥瘡回診の様子

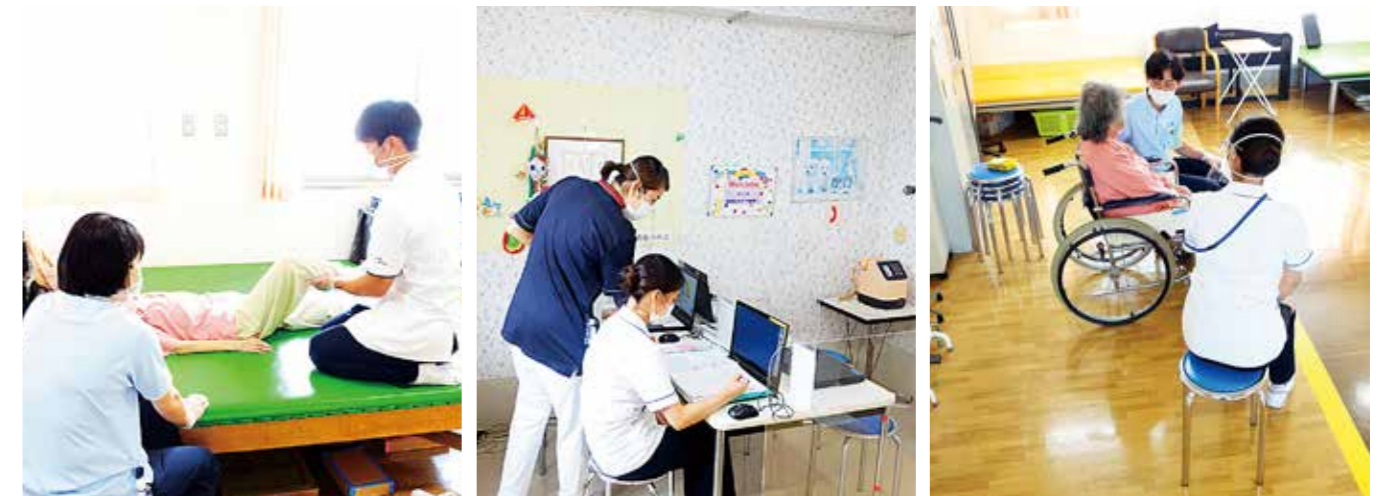


褥瘡対策チーム ミーティングの様子

## 令和5年度 学生臨床実習受入れを行いました

当院では、次世代を担う学生の育成を行っています。その一環として、令和5年9月~12月までの間に、看護学生19名、リハビリテーション学生3名(理学療法士2名、作業療法士1名)の臨床実習受入れを行いました。学生は様々な疾患・状態の患者さんに対して看護や検査、測定などを学びました。また、患者さんとの良い人間関係の構築の仕方や安全性に配慮し、闘病意欲の向上につながる適切な援助など学校内だけでは学ぶことが難しいことも受け持ち患者さんを通して経験することができました。臨床実習にてそれぞれの新たに見えた課題を乗り越えて、卒業後は各医療現場で活躍していただければと思います。

病院臨床実習にご協力いただいた患者さん、ご家族の方に改めて感謝申し上げます。臨床実習経験を通して、医療職を目指す学生を当法人全体でサポートしていきます。



## 令和5年度 神奈川県看護学会 研究発表を行いました

神奈川県看護学会では、下記目的で毎年、看護学会を開催しています。

「実践に根ざした看護研究への支援を行い、県内の看護職員の相互啓発の場を提供し、看護の質向上を図り、県民の健康の保持・増進に貢献する」

令和5年度は、「キャリアをつなぐPartⅡ~わたしの未来~」のテーマで12月2日にパシフィコ横浜アネックスホールにて開催されました。当院からは、3名参加し、「A病棟におけるインシデントの発生要因の分析」の示説(ポスター)発表を行い、質疑応答や意見交換を行いました。



## 県央地区認知症疾患医療センター研修会を開催しました

令和5年11月29日(水)19時より、海老名市文化会館にて、神奈川県委託事業の一環として当院理事長の佐藤一守が座長を務めた研修会を開催しました。医療、介護、福祉関係者の方を対象に、『認知症と共に生きる ～ご本人・介護する人・医療者 それぞれの立場から～』というテーマのもと、当法人併設施設 老健こまち 訪問看護の職員を含む3名の方に講演していただきました。終了後のアンケート回答では、「具体的な内容で分かりやすかった」、「(かながわオレンジ大使さんとの)質問形式でのやりとりがとても新鮮でした」、「とても参考になりました」等と好評を博しました。



## 検査案内～パシャッとカメラで目を撮影！眼底検査～

眼底検査は、目の奥にある「眼底」を眼底カメラで撮影し、眼底の血管、網膜、視神経等を調べる検査です。眼底は体の外側から血管の状態を見ることができる唯一の器官のため、眼底検査では目の病気だけでなく、高血圧や糖尿病などの全身の病気の手がかりも発見できます。

### 眼底検査で発見できる主な病気

- **緑内障**：視野が狭くなったり部分的に見えなくなったりする病気
- **白内障**：目の中にある光を通す水晶体が濁ることで、視力が低下する病気
- **黄斑変性**：加齢とともに網膜がダメージを受けて視力が低下する病気
- **糖尿病網膜症**：糖尿病が原因で網膜がダメージを受け、視力が低下する病気

### 眼底検査の方法

- ① 瞳孔が自然に広がる暗い部屋で医師が撮影します
- ② 額とあごをカメラの所定の位置に合わせ、目を開くと一瞬フラッシュが光って撮影が行われます。撮影は片方ずつ行います。  
※検査時間は数分。少しまぶしいですが、痛みはありません。



外来診療日(眼科)：月・木・金 午前

## 意外と知らない薬の使い方

薬を正しく使わなければ、効果も十分に発揮されません。薬の正しい使い方と上手に飲むためのコツを紹介します。

### 薬の正しい使い方

- **説明書をよく読み、医師や薬剤師の指示に従う**  
勝手な判断で服薬を中止したり、薬の量を変更してはいけません。副作用が見られたときは早めに医師や薬剤師に相談します。また、薬の飲み合わせによっては効果が十分に得られない場合があります。受診時は「お薬手帳」を忘れずに。
- **保管場所に注意する**  
薬は日が当たらず湿気の少ない場所に、シロップ薬や坐薬は冷蔵庫に保管します。
- **飲む時間を守る**  
決められた時間に飲まないとうちが効かないこともあります。



### 薬を飲むときのコツ

- **飲み忘れ防止**  
薬を1回分ずつまとめ、服用時間を書いた仕切りつきの空き箱などに整理すると良いでしょう。
- **飲みにくさ軽減**  
口が乾いていると飲み込めない原因にもなるので、口内を十分湿らすことが重要です。市販の服薬ゼリーを使うのも一つの手です。



## 創立記念式典を行いました

本年1月13日に病院41周年創立記念式典を行いました。最初に永年勤続表彰を行い、今年は総勢39名の職員が対象となりました。対象者の最長は、勤続35年となります。病院創立時を知る貴重な職員となります。これからも末永く在籍していただきたいと思います。

また、1月は理事長の誕生日です。看護部からサプライズで花束贈呈を行いました。表彰後は法人全体研修会として外部講師をお招きし、接遇研修を行い沢山の質疑応答がありました。

病院は、患者さんやご家族、業者の方など人と接して成り立っています。医療はより接遇が大切となりますので、信頼関係がこれからも築けるよう日々、取り組んで参りたいと思います。



## 精神科コラム 第5回「HSP(ハイリー・センシティブ・パーソン)」

HSPとは、Highly Sensitive Personの略で、感受性が高く敏感な気質を持った人、という意味です。HSPは生まれ持った気質であり、病名ではありません。HSPの人は、そうではない人と比べて刺激に強く反応し、不安や恐怖を感じやすいですが、相手の気持ちを考えて行動したり物事を深く探究することができます。

自分がHSPかも、というだけで病院に行く必要はなく、HSPの気質と向き合い、自分に合った対処法を見つけていくことが大切です。ただし、HSPによるストレスで不眠や憂鬱な状態が続き、心身に影響がある場合は、うつ病や不安障害などの病気につながる恐れがあります。そんな時は病院を受診することをおすすめします。精神的な症状が強い場合は「精神科」、体の不調を伴う場合は「心療内科」を受診すると良いでしょう。

### HSP 4つの性質

- **深く処理する**：簡単な物事であっても、深く思考をめぐらせる。
- **過剰に刺激を受けやすい**：外部からの刺激に敏感に反応する。
- **感情の反応が強く、共感しやすい**：相手の感情の影響を受けやすい。
- **些細な刺激を察知する**：物音や光、匂いなどの些細な刺激にすぐ気づく。



外来診療日(精神科)：月～土 午前、月 午後 担当医師：精神科 佐藤一守、安東

## 病院食紹介

今号でご紹介する病院食は、1月末の昼食に提供しました洋食メニュー「ロールパン、コーンシチュー、野菜和え、りんごのシロップ漬け」です。寒い季節に温まっていたきたく、コトコト時間をかけてシチューを作りました。また、全体的に味が重くならないよう、野菜和えはさっぱりドレッシングで和えています。和・洋・中とバランスよく献立を組み、患者さんを“食”でサポートして参ります。



## 採用情報

当院で一緒に働いていただける方を募集しています。愛甲石田駅からの職員送迎、職種によっては、就職支援金制度もあります。詳細は、ホームページをご覧ください。皆さんの応募をお待ちしております。

ホームページもぜひご覧ください!

厚木佐藤病院 採用情報 検索

<http://www.touwakai.com/job.html>



QRコード

## 厚木佐藤病院 基本理念と行動基準

**基本理念** 心と体の健康を守る質の高い地域医療の提供

- 行動基準**
- ・患者さんに寄り添い真心と責任を持って接しよう
  - ・スタッフ全員で作るチーム医療をしよう
  - ・学ぶ姿勢を持ち医療の質を高めよう
  - ・常に考え安全で効率的な医療を目指そう
  - ・健康に気を付け元気に業務にあたれるようにしよう

## 医療法人社団 藤和会 厚木佐藤病院

**住所** 〒243-0125 神奈川県厚木市小野759

診療および医療相談についてはこちら

TEL 046-247-1211 FAX 046-247-6552

認知症疾患医療センター TEL 046-247-1211

月・火、木～土 (祝日は除く) 9:30～16:00

診療時間 月曜～土曜

午前 9:00～12:00 (初診は、11:00まで)

午後 14:00～17:00 (初診は、16:00まで)

※受付終了時間は、診療終了15分前となります。  
※祝日は、休診となります。※診療料は、曜日によって異なります。  
お電話またはホームページをご確認ください。

### 交通のご案内 (バス)

#### ●小田急線「本厚木」駅東口下車

厚木バスセンターより9番のりば「森の里」行き (赤羽根・高松山経由以外)  
「七沢」「神奈川川ハビリ」「広沢寺温泉」行き→「小野橋」下車

#### ●小田急線「愛甲石田」駅下車

3番のりば「七沢病院」行き→「小野橋」下車4番のりば「森の里」「松陰大学」  
「日産先進技術開発センター」行き→「小野橋」下車

ホームページもぜひご覧ください!

厚木佐藤病院 検索

<http://www.touwakai.com>



入院相談についてはこちら 医療サービス課

TEL 046-258-6663 FAX 046-247-1247

### アクセスマップ



時間が経過するのは早いもので、Vol.5発刊から半年が経過しました。この期間も当院では、本号の通り色々な取り組みを行ってきました。これからも、地域医療に貢献して参りますので、令和6年もよろしくお願いいたします。

厚木佐藤病院 広報委員会  
海老原、長尾、平田、松浦、  
山田、高久、大木、松本